

中国・韓国
とのゆかり
探訪

第5回

1300年前に
海を渡ってきた
文化は奈良から
日本各地へと
広まった

春日大社の春日若宮おん祭 — 日本的な神事にも中国・朝鮮半島とのゆかりが

春日大社の「おん祭」は、奈良の年中行事の中で最も豪華な祭の1つです。この祭は、1136年に時の関白・藤原忠通が春日大社若宮の御神霊を春日野のお旅所に迎え、五穀豊穡を祈ったのが起源とされています。

7月1日に神事が始まり、12月15日から4日間にわたって本格的な大祭が行われます。17日の「遷幸の儀」では、深夜に御神霊を若宮からお旅所に遷す儀式があります。これは一切の灯りを消した暗闇の中で、神をもった神人が御神霊のまわりを取り囲み、不思議な声を発しながら渡る神々しい神事です。同日に行われる「お渡り式」は、平安時代から鎌倉、室町、江戸と、各時代にわたる衣裳をまとった人々による1キロメートルに渡る豪華なパレードで、日本の歴史絵巻を直に目にすることができます。次いでお旅所でお旅所祭が行われ、さらに神楽や田楽、猿楽などの芸能が次々と奉納されます。これら一連の行事はいずれも日本的な祭事ですが、日本古来の芸能と同時に中国・朝鮮半島などから渡来した舞楽が奉納されます。

おん祭では、古代日本に中国や朝鮮半島から渡来した舞楽が、一千年の時間を越えて受け継がれているさまを見ることができます。



朝鮮半島から伝わった
舞楽「納曾利」

中国から伝わった
舞楽「闍婆王」



「お渡り式」の様子

☎ 県国際観光課 ☎ 0742・27・8553 FAX 0742・23・0620

統計から 知る奈良 第5回

県民の 介護の状況は？ 「奈良県民のくらしに 関する調査」の結果から

厚生労働省の「国民生活基礎調査」では、要介護者等と同居して、主に介護している人の多く（男性の約56%、女性の約68%）が、悩みやストレスを感じており、その原因の1位は男女ともに「同居家族の介護」という結果が出ています。

「奈良県民のくらしに関する調査」では、介護や看護が必要な人がいる世帯は、全世帯の約1割（約5万5000世帯）です。その内の約8割が外部のサービス・手助けを受けています。

その内容は下図のようになっています。

一人で抱え込まないで、大切な人をみんなで支えていく。今後ますます増えていく介護の問題の、一つのポイントになるのかもしれない。

介護・看護に関して利用している外部サービス・手助けの内容



☎ 県統計課 ☎ 0742・27・8439
FAX 0742・27・0615

